

## 理論の欠如、社会主義の危機

われわれの意見では、社会主義の危機は、すこしでもまじめな社会主義者にたいして、まさに理論にたいする関心をつよめ、厳格に規定された立場をもっと断固としてとり、ぐらぐらした頼りにならない分子にたいしていっそうきっぱりと分界線を劃する義務を負わせるものである。ところが、社会革命党の意見では、「ドイツ人のところにさえ」分裂や混乱があるからには、われわれロシア国人は、自分がどこへさまよっていくのか自分で知らないことを誇りにするように、神様ご自身に命じられているのだ、というのである。われわれの意見では、理論の欠如は、革命的流派からその存在の権利を取りあげるものであり、この流派を、遅かれ早かれ不可避免的に政治的に破産すべき運命にさだめるものである。ところが、社会革命党の意見では、理論の欠如はきわめてけっこうなことで、「統合にとって」とくに好つごうなのである。ごらんのおり、われわれと彼らとはどうてい話し合いをつけることはできない。というのは、われわれはおたがいに別々の言葉ではなしているからである。

第六卷 革命的冒険主義 P189

『イスクラ』1902 年第 2 3 号、8 月 1 日、および第 2 4 号、9 月 1 日

## コメント

「社会主義の危機（社会主義についての分裂や混乱があるとき）」に際し、日和見主義者はその曖昧さを認め、それをより大きな統合の条件とするが、私たちは、「理論の欠如は、革命的流派からその存在の権利を取りあげるものであり、この流派を、遅かれ早かれ不可避免的に政治的に破産すべき運命にさだめるものである」と考え、「理論にたいする関心をつよめ、厳格に規定された立場をもっと断固としてとり、ぐらぐらした頼りにならない分子にたいしていっそうきっぱりと分界線を劃する義務を負わせるものである」と考える。 **強固な理論が強固な党を作り、強固な党が労働者に強い力を与える。**